

天声人語

ミュージシャンで俳優のピエール瀧容疑者が、麻薬取締法違反の疑いで逮捕された。コカインを使用したと見られている。またも起きた芸能人の事件に、げんなりする。ただ、出演した作品にまでフタをするのは行き過ぎではないか▼NHKが番組をインターネットに配信するオンデマンド・サービスで、瀧容疑者の出ていた6作品が見られなくなった。連続テレビ小説「あまちゃん」もその一つ。寡黙な寿司屋の大将役を覚えていた方もいるだろう▼撮影が終わっていた映画も、瀧容疑者の出演場面に代役を立て、撮り直すことになった。俳優が事件を起こすと、出演作品を引っ込める。どうもそれが、世の習いになりつつあるようだ▼ふと思いつくのが戦後の無頼派作家、坂口安吾である。覚醒剤の常習者で、ヒロポンの注射も打ったが、錠剤のほうがいいなどと自ら書いている。覚醒剤を飲んで仕事をやるから眠れなくなり、酒や睡眠薬の力で床についたという(『安吾巷談』)▼当時はまだ合法だったが、いまは御法度のクスリである。それをもって安吾の作品をお蔵入りにすべきだと考える人は、おそらくいまい。作家の私生活はどうあれ、「墮落論」には引き込まれるし「風博士」は笑えるのだ▼薬物の恐ろしさ、薬物犯罪の罪深さは、強調してもしすぎることはない。しかし逮捕されたことと、作品の魅力は、分けて考えるべきではないか。見続けたい作品かどうかを決めるのは視聴者である。NHKや映画会社ではない。